

東京工大クロニクル

Tokyo Institute of Technology Chronicle

No. 146

May 1982

主要記事

新入生セミナー報告	1
挨拶	5
職員サークルへの案内	9

新入生セミナー報告

理学系の新入生オリエンテーションとセミナー

1類主任 堀 素夫

1類の新入生オリエンテーションは、4月7日午後2時より、第4新館232講議室において例年通りのプログラムに従って進められた。類主任の挨拶に始まり、クラス編成と名簿配布、クラス担任・助言教官の紹介、履習要領の説明の後、理学部5学科の学科主任により各学科の内容紹介が行われた。このオリエンテーションでは、基礎研究を担当する理学部に進学する1類学生としての心構えが繰り返し説かれ、とくに自発性と独創性が必要なことが強調され、新入生の自覚を促した。

翌8日午前8時30分、2名の欠席者を除く新入生156名（内女子7名）、教官10名、事務官2名が図書館前に集合、4台のバスに分乗して新入生セミナーの開催地である鴨川シーワールドホテルに向けて出発した。

車内では、ほとんどが初対面に近い新入生同士とあって、初めの間こそぎこちない静かな雰囲気であったが、自己紹介が進むにつれて学生諸君の気分もほぐれ、次第になごやかな談笑の渦が広がっていった。

12時20分鴨川シーワールドに到着、昼食後まずイルカ、ペルーガ、シャチ、アシカ、トドなどの海獣ショーを観覧し、イルカ類の知能の意外な高さに感銘を受けた。つづいて、マンボウの長時間飼育の世界新記録で有名な水族館を見学したが、あまりにも盛り沢山で時間が少なすぎたという声が多かったようである。

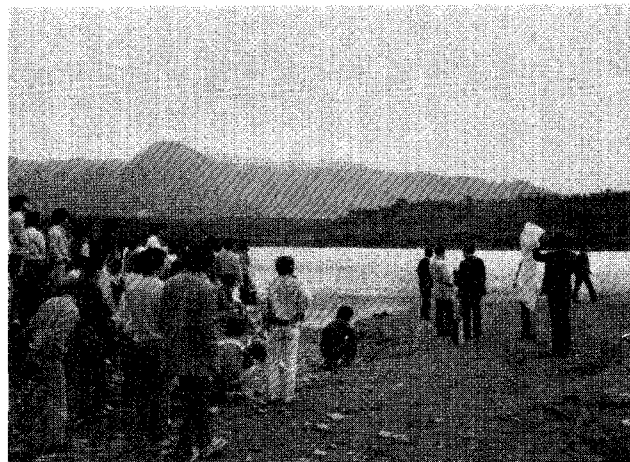
セミナーとしては、午後3時20分から全体セミナー、夕食をはさんで7時から分団セミナーが行われた。全体セミナーでは、河村助教授による本学の歴史と現状の紹介の後、八嶋助教授の「触媒の話」、小林助教授の「コンピュータによる数式処理」、橋本助教授の「極低温とその応用」の解説があり、数学、物理、化学各分野の最新の話題が披露された。クラス別の分団セミナーでは、各学科の内容、授業科目や学習規程などの詳



細な説明が行われた。両セミナーとも、今年は例年になく活発な質疑があり、予定時間を大幅に超過した。

2日目の9日は午前9時にホテルを出発、鹿野山のマザー牧場で下車、満開の桜の下でジンギスカン鍋を囲んで豊かな自然を満喫した後、午後5時無事大岡山キャンパスに帰着、全日程を終了した。

新入生セミナーの意義は、教官側からの一方的な修学指導というのではなく、新入生諸君の大学生活の第一歩として、教官と同じ釜の飯を食い、共に学び共に語るところにあらう。この意味で、今年のセミナーが新入生諸君にとって思い出深い行事となったことを期待して筆を置く。 (理学部物理学科 教授)



材料革命の時代に新入生を迎えて

2類主任 後藤 和弘

次世代産業をになうための材料革命がはなやかに進んでいる。セラミックエンジン、アモルファス金属、センサー素子などの新しい機能材料に関連する学問の教育・研究を行う2類に、83名の新入生を迎えたことは大変よろこばしいことである。

4月8日(木)9時30分、新入生83名、教官15名、事務職員2名は3台のバスにて出発し、中央高速を経て河口湖紅葉台にて昼食、その後は例年通り火山学者の小坂丈予先生の富士山と箱根山の火山学的説明を聞きながらよく歩き廻る。5時箱根湖尻到着、6時～8時夕食、この間新入生全員の自己紹介。8時以後深夜にわたり新入生と教官の活発な懇談。



4月9日(金)9時より10時40分まで、科学史学者、道家達将先生の大学における学び方についての熱のこもった講演があった。つづいて科学映画「結晶をつくる」と「生きている金属」の上映があり11時40分昼食、12時出発、箱根火山の活動の歴史についての小坂丈予先生の説明を聞きながら、大湧谷、大観山、箱根町、杉並道路を経て湯本におりる。

午後3時長津田到着。6班に分れて、大学院材料科学専攻教官より長津田における2類学生に関連の深い教育研究設備について説明があった。その後、新設の超高電圧・超高真空・高分解能電子顕微鏡を見学した。説明は金属物理学者の長倉繁麿先生がしてくださった。

午後5時40分全員無事帰校。

以上が大略であったが、本年は強い社会的要請にしたがって2類の定員が10名増加し、84名になったこともあり、又最近の工業界における熱い材料革命を反映してか新入生の自己紹介、懇談会など非常に活発で、意欲的な学生が多く心強い次第であった。又これは非常に大事なことであるが、必ずしも志望通りの類に入らなかった新入生も少しいる。自己紹介の折、3、4人の学生が、「昨日のオリエンテーションや今日の旅行の間の先生方のお話をきいて2類希望ではなかったが、今後はいっしょうけんめい勉強したい」という発言があった。

83名のセミナーに参加した2類の新入生が順調に卒業し、次世代産業を担う材料革命に早く参加してくれることを祈りつつこの報告を終える。おわりに御同行、御協力下さいました14名の先生方、事務職員の方々に深く感謝する。 (工学部金属工学科 教授)

化学・友人をこの眼で確かめる

3 類主任 中條 利一郎

新入生セミナーの一般的な目的、すなわち、友人をこの眼で確かめることのほかに、第3類では化学をこの眼で確かめることも重要な目的としている。高校時代、あるいは受験時代に知識として勉強して来た化学が、化学工業の現場で活かされている実態に触れるため、ここ数年、化学工場の見学を兼ねているのはそういう事情による。本年は鹿島コンビナートにある三菱油化(株)鹿島事業所に見学をお願いし、宿舎にはその近くの潮来ホテルを選んだ。

4月8日定刻9時に3台のバスに分乗して大岡山を出発、成田で昼食の後、14時を少し過ぎた頃宿舎に到着した。成田山ではちょうど灌佛会で、あま茶を賞味した人もあったようである。セミナーは15時に開始、10名の教官、事務官1名、それに本年はじめて参加をお願いした3名の大学院学生の紹介のあと、安藤先生に「新入生にもわかるフロンティア電子論」と題する講義をお願いした。第3類と学問的に深い福井謙一先生のノーベル賞受賞の意義と業績について、イラスト入りのスライドで易しく解説をしていただいた。新入生からも核心を衝いた質問があり、有意義であった。小憩のあと、森川先生に大学歌、学生歌の歌唱指導、およびスライドを使つての本学の施設、生活の紹介をしていただいた。この頃から、本学学生としての自覚が生れて来たようである。夕食後、20～21時、三菱油化(株)の吉野、猪俣両氏より鹿島コンビナートの紹介をお願いし、第1日目の公式日程を全部終了した。

そのあとは、各人の部屋で友人をこの眼で確かめる時間であり、参加者諸君から後日聴いたところでは、はじめ未知の6人が1室で顔を合わせた時は異様な雰囲気だったが、各室ともそれぞれ何らかのキッカケで急にうちとけ、中にはうちとけすぎて、正方形の卓を囲んで翌朝まで確率論の実験をしていたとのことである。

翌朝はコンビナートにある港公園の展望台からコンビナートの全容を一望、三菱油化(株)で映画によるコンビナート建設史の紹介、工場の見学と予定通り進め、大吠崎で昼食のあと、大岡山に17時を少しまわった頃帰着した。

途中、二度雨にあったが、いずれもバスで移動中でお天気にも恵まれ、無事終了した。でかける前にバスで学内を一巡することを計画していたが、運転手と相談したところ、バスが通行するには学内の道路は狭すぎるということがわかり断念した。来年度以降の類主任の先生方へ引継ぎ事項としたい。

最後に、参加していただいた先生方、事務官、大学院の学生諸氏と、見学の計画・実施に御尽力いただいた三菱油化(株)に感謝し、結びとしたい。

(工学部高分子工学科 教授)

機械系新入生の

オリエンテーションとセミナー

4 類主任 臼井 英治

4月7日(水)、午後2時より、中棟3号館526講義室において4類新入生に対するオリエンテーションが開始された。類主任の挨拶、クラス担任と助言教官の紹介、翌日からの新入生セミナーの説明などの後いったん解散し、次いで各クラスごとに別の講義室を使用してオリエンテーションを継続した。新入生の自己紹介やクラス幹事の選出などのほか、各教官から就学上の諸注意がなされ、質疑応答が行われたが、新入生諸君すっかり固くなっているようであった。

翌8日午前9時、5台のバスに分乗、中央高速道路を通して河口湖に向かった。新入生172名(欠席3名)、教官15名(内特別参加、飯田教授、一色教授、清水助教授)、事務官1名、大学院生12名、総勢200名であった。出発時には小雨模様であったが河口湖では薄日がさす程に回復、安堵した。そこで湖畔で昼食後、富士山五合目に向かったが生憎の濃霧。それでも霧の切れ目に時折富士の山容、富士五湖の景観が現われ、歓声があがった。また南国の出身者であろうか、積雪が珍らしく、雪にたわむれる新入生がおり、ほほえましかった。午後3時、河口湖第一ホテルに入り、夕食後、下記の内容で全体セミナーがおこなわれた。

1. 類主任挨拶——発想の転換を 臼井英治教授
2. 東京工大が産んだ異才河井寛次郎
——科学的精神と詩の心 飯田賢一教授
3. 工学とは何か 竹中俊夫教授
4. 英国リーズ大学における機械工学
の境界領域研究と大学生活 塚田忠夫助教授
5. 富士通ファナック富士工場の概況
(16mm映画とスライドによる解説)

工場長 七田広道氏
ホテル側の不慣れのため開会が遅れたことに加え、諸先生いずれも大幅に持時間を越える熱弁をふるわれたため、質疑応答の時間がとれず、教官側からの一方通行になったのは残念であった。しかしバラエティに富んだ内容と諸先生の巧みな話術に時に感心、時に大爆笑する楽しいセミナーであった。また5番目の講演は翌日見学子定の日本で最初の無人化機械工場に関するものであったが、新入生には殆んどわからない技術用語の連続と無人工作機械の迫力が逆に強烈なインパクトになったようである。全体セミナーの後、12グループに分かれて大学院生を囲む懇談会に移った。新入生は「本音」が言えるし、聞けるらしく、例年この企画は最も好評を得ている。

翌9日は午前9時にホテルを出発、富士通ファナック富士工場を見学の後、山中湖で昼食中に大雨となっ

た。このため予定時間を繰りあげ、東名高速道路を経て午後3時過ぎに大岡山に帰着した。

本年度のセミナーは同行する教官、大学院生も楽しめるように講演にバラエティを持たせ、関心の高い無人化工場の見学も組み込んでみた。一泊のバス旅行と講演会というお決まりの方式には色々と意見もある昨今、そろそろ各々独自の特色ある企画でセミナーが行われるようになってよいのではないかと考えている。終りに御協力いただいた諸先生、大谷事務官に感謝いたします。(工学部機械物理工学科 教授)

新入生セミナー

5 類主任 深尾 毅

本年度5類セミナーは教職員15名、大学院生4名、新入生150名参加して西伊豆土肥温泉桂川シーサイドホテルで行われた。

8日9時過ぎ大学を出発、元箱根で昼食、三島、大仁を経て15時頃宿舎に到着した。朝は小雨の中を出発し、途中で晴れて来たが霧の十国峠ごえは残念ながらあきらめざるを得なかった。しかし西伊豆海岸は山に桜あり、おだやかな日差しをうけた海のながめあり、又ホテルのよくととのった設備と温泉、豊富な食事に新入生諸君はリラックスして友人と語り、遊び、散策を楽しんだようであった。

夕食後6時から8時まで会議室で全体セミナーを行ない、ついで別会場で10時頃迄クラスにわかれてクラスセミナーを行なった。

全体セミナーでは4人の先生に専門のトピックスその他についてスライドなどを使ってわかりやすく話をしていただいた。アメリカのベル研究所に1年半滞在され最近帰国されたばかりの古屋助教授からはベル研究所でのアイディア尊重の仕方やユーモアあふれる人づき合いなどについて、中野助教授はとび入りながら制御とロボットの関係について裏話をまじえて解説さ

れた。志村教授からはコンピュータの世界、国際化時代での英語の必要性和勉強の仕方など、高橋教授からは太陽電池とそれからの発電について豊富なスライドをつかって興味深い話をされた。先生方の個性的で興味をそそるお話に学生諸君から活発な質問があり、中には的を射た質問もあって我々教官を喜ばせた。セミナーのような比較的リラックスした席上ということもあったが、このような積極的な姿勢と生意気さが今後も続くことを期待したい。皆居眠りもせずよく聞いていたし、アンケート結果にも今後この様な話を聞く機会がほしいという意見もあり、今後研究室を見学させるなど計画して専門分野への興味をかきたて持続させたいと考えている。

クラスセミナーでは学習、大学生活に関する質疑応答後、教官、学生相互の懇談が多少の飲みもので一層うちとけたふん囲気ですすみ、お互いの親睦の実が上がったようである。

翌日は10時すぎからしめくくりの全体セミナーを開き、奥島教授による長津田紹介や、今回のセミナーについての感想を教官、学生に述べていただいて終了した。

10時40分ホテルを出発し、途中大仁で昼食後、沼津から東名高速道路に入り、一路帰京の途についた。あいにく又雨ふりとなったが、車中では仲よくなった友人達と語り合い、歌い、あるいは昨夜のつかれで居眠りしながら16時すぎ無事大学にもどった。

おわりに御協力いただいた各教職員、大学院生に心からお礼申し上げたい。

(工学部情報工学科 教授)

6 類新入生セミナー

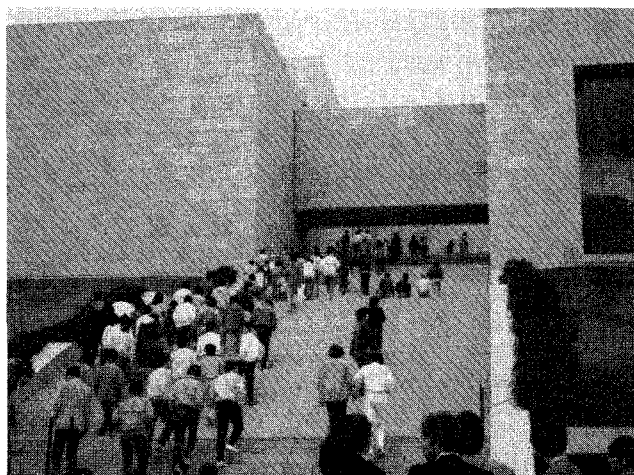
6 類主任 吉見 吉昭

胸に名札をつけた新入生と教職員を乗せた3台のバスは、ほぼ定刻に緑が丘の駐車場を出発した。足下の道路も、車窓から見る建物、橋、公園など、すべて6類の学生が将来計画し設計し施工する対象である。これまでは、使う人の立場でしか見なかったものを、作る人の側からながめる第一歩として、見学旅行は6類の新入生にとって特に意義深いように思われる。見学先は次のとおり。

4月8日：日本鋼管京浜製鉄所扇島地区(1兆円プロジェクト、ソフト・ハード技術の融合によって達成された質量ともに世界をリードする製鉄業の迫力)。東京電力東扇島LNG基地建設現場(6万kℓ地下貯槽7基)。横浜市関内地区環境整備例(大通り公園と伊勢佐木モール、もう一度ゆっくり散策しよう)。

4月9日：MOA美術館(今年1月オープンした美の





殿堂、庭園も遠景も結構、もう一度ゆっくり来てみよう)。真鶴道路の岩大橋（ディビダーク工法による海上橋をバスからチラリ）。東工大長津田キャンパス（社会開発工学専攻の研究室めぐり）。

セミナーはコメザクラが満開の箱根宮の下のつたや旅館で次のように行なわれた。

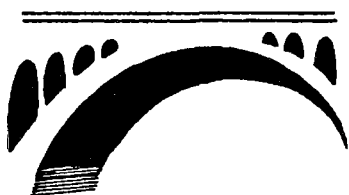
第1部（19時～22時）：スライド、映画、ビデオを混えた、教官による各学科紹介。土木工学科：交通工学（森地助教授）、美しい橋（三木助教授）、大三島橋建設記録（映画）。建築学科：心のこもった技術を身につけよう（和田助教授）、芦屋浜高層住宅の設計と施工（映画）。社会工学科：明日に向かって（ビデオ）、横浜まちづくり（ビデオ）、生産工学から生活工学へ（中村助教授）。

第2部（22時～23時）：4グループに分かれて、若手教官と院生を混えたティーチ・イン。新入生から、社会工学とは何かなどの質問。院生あたりから、本を読め、人と会えなどの助言。

第3部（23時～丑三つ時）：助手、院生を混えた有志グループによる懇親会。

オリエンテーション、セミナーと続いた3日間は、新入生にとって、矢継早に押し寄せる情報の高波に襲われたような経験ではなかったかと思う。これからの1年間、ゆっくり自分で考えたり、助言を求めたりして進路を決めてほしい。全員の協力によって、無事セミナーを終了することができた。とくに多田事務官には多くの御苦勞を掛けた。厚くお礼を申し上げる次第である。

（工学部建築学科 教授）



挨拶



理学部長に就任して

安盛 岩雄

この度、小口前理学部長の任期満了に伴い4月2日より理学部長の職に就いております。このことは私自身予想していませんでしたし、また任期も短期間でありますので抱負などを申し述べるのは面映い限りです。しかし大学の組織とその運営は、時間を越えて存続し発展させてゆかねばなりません。従ってその連鎖の一員としての責任は十分感じております。前学部長の着実なお考えとお仕事を引継ぎ、理学部のためにさらに大学に対してなにがしかの寄与ができればと願っております。

顧みますと、本学100年の歴史のなかで大きな節目の一つとなったのは第二次大戦の直後、工学技術者としてのありかたの反省から、基礎科学の充実と人間性豊かな科学技術者の育成をめざして行われた改革であると思います。この変革が今日の長津田における学際的研究・教育体制を含めた総合理工系大学への発展の途を切り拓いたことを考えると、当時他大学に先がけて自主的にこの改革を成遂げたその先見性とエネルギーには敬服せざるを得ません。それから既に35年、理学および工学の両学部の基盤が確立してから15年を経ました。この間の科学技術の進歩とこれに裏付けられた社会の発展はめざましく、本学が理想として掲げた科学と工学・技術の連けいはますます強くなっています。さらに最近の省資源、省エネルギー、環境保全などわれわれの自然に対する働きかけと生きかたの見直しは、その解決の鍵を握るものとしての科学技術に社会の新しい期待がたかまっているのを感じます。

こうした状況の中にあって、学術の研究・教育についての長期の展望と自主性を保ちながら社会の要請にどのように対応してゆくかは人員と経費の厳しい制約もあり難しい課題であります。また国際的、社会的に開かれた大学として急増する留学生や学生・研究者の交流、学外との協同研究のありかたなど検討しなければならない問題が山積しています。われわれは今つぎの大きな変革の節目にさしかかっていると思います。

この困難なしかし希望にみちた時期にあたって、私は教官・職員の方々の知恵とエネルギーを結集して新しい突破口を開いてゆくための触媒の役割りを果たせたいと願っております。今後ともよろしく願ひいたします。

（理学部化学科 教授）



就任に際して

藤本 盛久

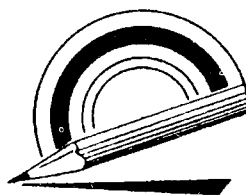
「工学部の卒業生は全員起立願います。」進行係の庶務課長の声で、800人収容の講堂の前半分の座席の始んどが起立し、関口工学部長の「控え」で松田学長から次々と学科代表に卒業証書が授与されて行く。

春爛漫、桜咲く3月26日に行われた学部卒業式の状況である。2月17日の工学部教授会で、はからずも工学部長に選出され、来年の卒業式には自分も壇上に上がらなければならないということから、心配のあまり様子を知らうと久しぶりに参列した卒業式である。一番後の席で講堂全体がみわたせたためか、起立した工

学部卒業生の多さにあらためてびっくりしてしまったのであるが、四年前にはフレッシュマンであったこの卒業生達を、社会から「ひっぱりだこ」の立派な研究者、技術者に成長させた教育の力を思い、大学院も含めてこの教育と研究を力強く遂行している工学部の長としての責任の重さに覚悟をあらたにした次第である。

かねがね本学出身の一教官として、母校をいろいろな意味で、「天下一のピカピカの大学」にしたいと念願し、自分なりに努力はして来たつもりであるが、工学部の長として大学全体をみつめたら、工学部を良くし、工学部を良くすることによって大学を良くするという方向であと2年間、先生方、事務局の方々皆さんの御協力をいただいて、性根を据えてがんばるつもりである。よろしくお願い申し上げます。

(工学部建築学科 教授)



大学院総合理工学研究 科長に就任して

明島 高司

このたび小林啓美先生の後をうけて、4月1日付で大学院総合理工学研究科長に就任いたしました。これまで講座の担任者として専攻を通じて総合理工学研究科をみてきた私にとって、この半月間の経験は全く新しいことであり、責任の重大さを感じることはばかりであります。

総合理工学研究科は、小林前研究科長時代に教官充員もほぼ終了し、修士課程学生の修了は当然のこととして、博士後期課程修了者も全専攻から出すようになっており、全くの平常状態になっています。現在、基幹講座数27、協力講座数53、計80講座を擁します。今後は長期的な展望のもとに、質的な充実を図らねばなりません。私はもとより微力ではありますが、よりよい教育・研究環境ができますよう最善の努力を尽くす所存であります。

本研究科は、新しいキャンパスに創設された組織であり、フレッシュな、意欲的な活動を展開していると

考えておりますが、荒けずりのままのところ、バランスにもう一工夫欲しいところなどがあるように感じています。また、新しい組織ではありますが、10年という歳月をむかえるようになれば、学問、社会の進展にあわせて改善、適応策の検討されることがあってもよかろうと思っています。これらのことに対処するために、まず研究科内、研究科間の意思の疎通を図ることに十分留意したいと考えております。

大変嬉しいことですが、この秋からは長津田キャンパスでも仮設ながら相当程度にスポーツが楽しめるようになります。既に本誌143号で詳報されましたように、約8万㎡の土を削り、グラウンドならびに建物用地を造成する工事が進められています。グラウンドの完成によってキャンパス・ライフはのびのびしたものになりましょう。これを機に、両学部の優秀なる学生諸君の進学を期待いたします。

全学の皆様をお願いいたしますことは、御承知のとおり本研究科は理学部、工学部、4研究所と密接な協力関係において成り立っておりますので、これまでどおり全学の御協力、御支援を頂きたいということでもあります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

(大学院総合理工学研究科 教授)



資源化学研究所長 に就任して

鈴木 周一

この度大河原信先生の後を受けて、はからずも資源化学研究所長をお引き受けすることになり、4月1日付で就任いたしました。

これまで学内の運営につきましては、各種の委員会委員として従事して来ましたが、研究所の大学における研究、教育のあり方、他部局との連けい、運営など、職責の重大さを強く感じております。私自身の微力をよく承知しておりますが、研究所がより一層発展するように誠実を以て精一杯努力いたしたいと考えて居ります。

資源化学研究所は昭和14年に資源に関する学理および応用の研究を目的として創立され、次いで昭和29年に燃料科学研究所を発展的に整備統合し、以来28有余年を数えました。その間昭和49年に研究所附属施設として、資源循環研究施設が新設され、次いで昭和54年にエネルギー資源部門、昭和57年に生体反応工学部門（客員部門）の増設が認められ、現在13部門、1研究施設の構成をもつ総合化学研究所として発展してきました。

御承知のように資源は有限であるという認識は世界的に共通であります。この地球上の有限の資源を活用して環境を汚染することなく、人類の福祉に役立つ研究を行うのが、資源化学研究所の使命であります。使い捨てが賛美された時代は過ぎ、資源の活用と循環利用が改めて緊急の課題として浮び上がってきています。資源化学研究所はこのような時代の要求を先取りして生れ、幾多の変せんを経ながら設立目的として掲げられた「資源の化学的利用に関する学理及びその応用の研究」を遂行しております。現在基礎から応用、開発にわたる幅広い部門構成を有し、無機化学、高分子化学、触媒化学、生物化学、有機化学、化学工学等各分野の人材を集め活発な研究を行っております。なお最近の状況は「東工大の研究生産性」と題する報告（本誌、No128, Oct.1980）に記載されております。このような部門構成と研究活動からみて、資源、エネルギーに関して広範囲の分野の基礎から応用にわたる問題と取り組む本研究所の性格がほぼ固まったといえるでしょう。

このような現況において、本学の教官との共同研究も盛んで、今後益々学際的な研究を進展させたいと願っております。

最後に本研究所の連けい、運営につきまして、本学の職員の皆様から御支援、御鞭撻をたまわるようお願い申し上げます。（資源化学研究所 教授）



教務部長に就任して

田中 良平

昭和57年4月1日付けで、黒正清治教授のあとを受けて教務部長を命ぜられました。微力ではありますが、一生懸命努力したいと考えております。

さて、学内は一見して“すべて順調”のように思われますが、教務部の関係する事項だけに限りましても、早急に検討あるいは改善を要する問題が山積しているように思われます。

たとえば、本年度から高等学校の学習指導要領が大幅に改訂され、それに伴って昭和60年以降の入学選抜方法のあり方、入学者に対する教育内容など、2年間の私の任期中に十分な検討を行わねばならないと考えます。

一方、教務部がお世話をしている留学生は42か国、221名に達し、今後もさらに増加するものと予想されますが、それに伴う宿舎の不足は大きな問題となりつつあります。

そのほか、保健体育用のロッカー室が狭く、かつ建物も老朽化し、環境衛生上、防犯上からも早急に手を

打つ必要があります。グラウンドの砂じんも問題です。

合宿研修所関係では、大洗の敷地内にある松の木の松くい虫による被害と構内の整備問題、木崎湖の環境問題、鹿沢の建物の老朽化などがあります。

保健管理センター関係では、5,000名の学生と2,000名の職員の十分な健康管理を実施するための診療所体制や臨床検査器械の整備充実、建物の狭隘化の対策、長津田地区と田町地区の医療体制の拡充、定期健康診断項目の追加、低単位取得者や留年者のカウンセリング等々。

そのほかにもいろいろと問題がありますようで、教務部長としての責任の重さを改めて痛感致しております。

教務部では、清水次長を始めとして多数の勤勉かつ有能な職員が、その職務を遂行するため日夜努力しておりますし、また教官側からも3名の副部長と10名余りの部長補佐に直接的な御協力をお願いしております。しかし上に述べましたような多くの問題の処理、解決は、学長始め全学の皆様の暖かい御支援がなくては達成できません。

教務部長就任に当りまして、皆様の御理解、御指導をお願いする次第であります。

（工学部金属工学科 教授）



附属図書館長の 就任にあたって

早川 宗八郎

昨年総合研究館長に就任して一年、まだ緑の中の館長室の居心地を味わう余裕を持てないまま、このたび図らずも附属図書館長を仰せつかりました。これは図らずもというより、全く柄になくといった方がよいように思えます。図書館長という大役はまさに本の虫といわれる程の篤学高潔の学究の士の任であると、私には思われていたからです。

勿論、図書館が、単に図書の集積の場でもなく、また読書に便利なだけの空間でもなく、まさに学究者の欲求する情報流通を行う場であることは知っています。とくに本学の図書館は、我が国の学術情報システムの中の理工学系唯一の外国雑誌センター館として、全国の国公立大学への情報サービスを行う大きな使命を担っています。この使命はそのまま、本学の研究にも有益なものであり、そのためにきわめて充実した機能が果されています。歴代館長はじめ館員の方々の努力、それを支援された学長はじめ教職員ならびに学生諸氏の地道な努力によるものと、深い感銘を覚えています。

図書館長としての私の業務はまだ一か月足らずですが、私の感じましたところを一言述べさせていただきますと、図書館は生き字引という老人ではなく、活動し成長している若者であります。情報と物質とエネルギーが深く関連し、よく連繫を保ちながら、前述の機能を果している貪欲で活動的な有機体です。昨年は体格が一まわり大きくなりました。頭脳ともいべき電算機が大いに能力を発揮している段階に入り、また図書館間の学術情報交流システムの計画も進み、本学の図書館も地域センターとしての任を担う準備を進めています。また長津田分館との間の光ケーブルも有効な器官となることでしょう。こうした有機体がますます活力をもつためには、それなりに多くの問題が生じ、その解決の必要も起ると思います。

このような図書館のお世話をすることになり、全く戸惑っていますが、力の及ぶ限り努力いたしたいと思っています。大学の教育と研究のレベルは、その大学の図書館の充実度と利用率で測られると言われますがその意味で、学内外においてこの図書館の存在が高い評価を得られますよう、皆様の御協力をお願いして、就任の御挨拶といたします。

(理学部応用物理学科 教授)



総合情報処理センター長 に就任して

池辺 潤

この度図らずも総合情報処理センター長という重職を拝命しました。センター長として数々の業績をあげられた、敏腕な飯島先生のあとを継ぐことは、私には大変な重荷に思われましたが、30年余もお世話になっている本学へのせめてもの御恩返しと考え、お引受けした次第です。

本センターのコンピュータも、堀江久先生、小林啓美先生、飯島泰蔵先生と三代のセンター長を中心にした関係各位の御努力によって、現在では大岡山にM-200Hが、長津田にM-180があり、さらに両者が専用回線で結合されているシステムへと大きく発展して来しました。

さらに飯島センター長の時代に導入された自動化システムは、手薄のセンター職員に対する支援となるとともに、利用時間の延長への道を開いたもので、システム運用の上での大躍進でありました。これは資源の有効利用という観点からも、TSSの促進という面からも、まことに時宜をえたもので、今後ともこの方向は大いに進展させねばならないと思います。

御存知のように、大岡山、長津田両キャンパス間の情報伝達システムがいよいよ稼働しようとしております。超高速大容量の光通信がついに実用化の時代に入るわけですが、これはコンピュータにとっても大きな福音になるはずです。というのは、多数のコンピュータを光通信網で有機的に結合することにより、極めて高度のコンピュータ・ネットワークの構築が可能になるからです。これによって、本学における研究面へのサービスを飛躍的に高めようという構想が、本センターでは次第に熟しつつあります。

また、教育は本センターを支える三本柱の一つです。本学の学生は理数系に強いことが大きな特徴とされておりますが、さらにコンピュータにも強いということは、これからの科学技術の分野で働く者にとって極めて重要な能力となります。このためにも、一般的情報処理教育へのサービス体制はますます強化していかねばならないと思います。

このほかにも、世の中のコンピュータ事情の縮図が本学にも起こるということを十分念頭におき、アンテナを学の内外に向けて張り、きめ細かに情報をキャッチして、機動力のある態勢を整えておかねばなりません。ユーザの方々に始め関係各位の御協力を切にお願い致します。

(精密工学研究所 教授)

職員サークルへの案内

現在、教職員による文化・運動関係のサークルは数多くあり、それぞれ昼休み、勤務時間外を利用して練習・活動に励んでいます。

日常の仕事を離れてスポーツに汗を流したり、趣味を生かして余暇を楽しく過ごしてみませんか。

2回にわけて職員サークルの案内を掲載しますので参考にしてください。積極的に職員サークルへ参加し、他の職場の人と親睦をはかりましょう。(掲載順不同)

書に興味のある同好の方は、一人でも多く入会してくださるよう下記にご連絡ください。

なお、今年度の出品予定は下記のとおりです。

瑞雲書道展	7月25日～31日	東京都美術館
全書芸展	7月30日～8月3日	東京交通会館
龍雲会展	8月31日～9月5日	有楽町洋協ホール
職員文化展	10月(予定)	
神奈川県展	11月11日～15日	横浜市民ギャラリー

連絡先：大岡山地区 工学部 白木(3101)
長津田地区 総理工 高橋(2024)

東工大職員バレーボール部

我々、職員バレー部はバレーボールを通じて親睦と体力増進を図ることを目的としています。水曜日を除く昼休み、体育館の畳から畳を使い、平均年齢25歳で活発に練習を行っています。いつも練習が終わると、気分は爽快です。バレーボールは親しみやすいと共に効果的に体力増進を行える運動です。

現在部員は22名、対外試合は活発で、八大学親善試合、目黒区9人制バレーボール大会、医科歯科大・東京学芸大・電通大等との練習試合、また今年から発足する文部省教職員東京地区バレーボール連盟に加入し、活動する予定です。夏期には厳しくも賑やかな合宿も行い、大いにバレーボールを楽しんでいます。

昼休み等を利用して運動したい方は、初心者でも経験者でも大歓迎です。阿久津(内線2062)まで電話してください。女性の方もお待ちしております。

書道部

最近の書道展は、美術館、ギャラリー、デパートの催物場等は史上空前の盛況です。

その原因は、生活の技術として実用面に大きな役割を果たしているとともに、永い伝統的な芸術としての役割を持ち得ているからです。特に近年は、印刷やタイプライター等の機械化文明の進展に対し、人間味のある手作りのものへの指向性が強まり、書道も多くの方々に興味を持たれてきています。

私共書道部は、東工書道会と称し、会長に学長松田武彦先生に就任して頂き、講師は書家鈴木龍雲先生の御指導をお願いしております。練習日は毎月の月曜日、午後5時30分より7時30分まで本館地下女子更衣室です。内容は、月刊誌、全書芸、大東書道をもとにして、月々の競書を提出したり、各々の書道展にも出品して、古筆の良さ、又独創的な現代の書風を勉強しております。

サッカークラブ

教職員の皆さんお昼休みはどのようにお過ごしですか。私達は広いグラウンドでサッカーボールを蹴って汗を流しています。日曜日は時々試合に出かけます。晴天の下で快適な試合をすることもあります。でも荒天の時は雨と泥と汗でぬれねずみになることもあります。それでも気分だけは爽快です。

我がサッカークラブは創立してすでに15年目を迎え、部員数26名と大きく成長しました。これを支えてきたのは多くの先輩諸氏であると同時に、他のスポーツには見られない「安上がりのスポーツ」であることも大きな要因と言えると思います。サッカーはボール1個で充分です。

私達は月曜から金曜までの毎日、お昼休みに常時10～15名が参加して比較的ハードな練習をしています。試合は東京都社会人リーグ(3部)に加盟して年間約10試合と、東大、東北大及び本学の3大学定期戦が秋に2日間の日程で行なわれます。その他練習試合を含めると年間15～20試合となりあらゆるチームとのサッカー交流の輪を広げています。目下のところ最大のライバルは「東大ダックス」(東大職員サッカー部)で、このチームを破ることが当面の目標です。

本学は大岡山地区と長津田地区の2つのキャンパスに別れているため全学が一体となった組織的な練習はできませんが、長津田地区にも近々グラウンドができると聞いていますので、今後は同地区の方の入部を特に歓迎します。将来は大岡山地区対長津田地区の戦いが夢です。

サッカークラブに入るためには年令、性別、学歴及び経験は一切問いません。サッカーをするのに必要なのは「ファイト」とそして若干の「部費」だけです。「乞う入部」 連絡先 内線3013 上園健一

茶 道 会

茶祖利休居士は「茶は渴を医するに止まる」といわれています。これは修道の根本精神であります。単に肉体的な咽喉の乾きを医すのみでなく、精神的なものを暗示し人生にうるおいを与えるものであることを教えられています。茶道の精神は大変奥深いものであります。私達茶道会（裏千家）は、この精神に一步でも近づくように稽古に励んでいます。また稽古は日常生活に役立つものと確信し、茶道会に入会されることを希望します。

今までの稽古は「置炉」を使用していましたが、現在は大学の好意により「炉」を切っていただきましたので一層しやすくなりました。また季節ごとのお菓子も楽しめます。

稽古日は、毎週金曜日、17時より本館女子更衣室で行っています。

入会金：1,500円、月謝：4,000円

問い合わせ先：原子炉研、鎌田（内線3060）

エサマキ会だより

春ともなると汐風にのり魚類の香りが無性に恋しくなる。勿論魚は一年中釣れるわけだが、どうも楽しさと、面白さが同居する釣りはやはり水ぬるむ春から秋にかけての釣りということになる。

エサマキ会という名前から想像するに、何時もエサをバラマキ、何時も「坊主」の状態で帰参する。釣会を行うたびに帰りぎわ、名前が悪いから変えようかと、誰言うともなしにつぶやくのだが、この伝統ある？名前を素直に変えたがらない気持ち、心のどっかに残っていて、結局もとのままである。それよりも釣れないのは名前のためではない「腕」のせいであろうと。

それにしても釣りは楽しい。特にこれから先初夏の海釣りは釣れても釣れなくとも楽しいのである。特に釣会の前日なんかは、心既に海上にあって、とらぬ狸の皮算用とやら、沢山釣ったらどうしようか、近所に配ろうか、役所での酒の肴とし自慢しようかと、思いなやむのである。

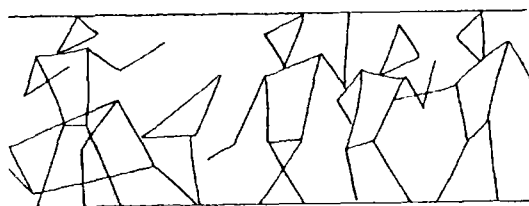
当日朝、心おどる。誰れよりも早く釣ろうと心中大いにあせる。……午前中まったく魚信なし。「釣れないのは汐のせいだ」……午後ボツボツ釣れる、しかし「坊主」の人もいる。誰かが言う「エサマキという名前のせいだ」……夕方の中「晩のオカズをどうしようか」と魚屋が気になる。

でも釣れた日もあるんですよ。

A氏平日(大)一匹馬面、鰻多数。B氏、C氏、D氏黒鯛それぞれ(大)一匹、鰻、馬面多数。その他氏鰻、カサゴ多

数………と。帰りに漁業組合に卸そうかと相談したそう。

現在エサマキ会員17名、年3回から4回の釣会を計画、昨年から巷間で納会を実施、対象魚は海釣り为主で、ベースは横須賀、走水桜井丸。入会資格は年齢不問、老若男女は問わない。ただし舟酔いの激しい人は薬のご厄介に。入会希望の方は理学部、岡崎 武（内線 2103）まで御連絡ください。



空 手 部

横綱の仕事は、おすもうです。空手部の仕事は、空手です。我々は身心の鍛練のため、練習にめっちゃんこ励んでいます。当部の特長は、えぐいシゴキが一切ないことで、そのため「なんぼやっても身につかんのが運動やな」という人から、「スポーツは爆発だ」ちゅうハリキリ少年まで、能力に応じた練習ができます。練習は型が中心で部のムードは大変明るく、優しい師範や面倒見のいい先輩に囲まれ、「気持んよかー」であります。

さあ、ここまで読んだらやるっきゃない。脇の甘い朝夕力士も薬に詳しい金平さんも、今すぐ武道館へ。入部は簡単、ノーサイン。「はい、おまた」で手続きOK。

なお、類似名称の部がありますので、入部の際は必ず空手部と御指定ください。皆様の入部を部員一同、心からお待ちしております。

そこんこヨロシク！

卓 球 部

卓球部は現在、男子19名、女子6名の20代前半から50代後半までの幅広い年齢層の部員を擁し、大岡山、長津田両キャンパスで、日夜練習に励んでいます。日黒区及び横浜市緑区の卓球連盟に加盟し、年数回の団体戦、個人戦の参加、他大学との親善試合の実施等の活動をしており、昨年秋には、第30回文部省所管東京地区教職員卓球大会において、女子シングルス、男子

ダブルス、混合ダブルスの優勝という輝かしい成績を収めることができました。また、毎年夏には、技術向上と部員の親睦を兼ねて強化合宿をする等、楽しいサークル活動を行っています。

雨の日も風の日も雪の日も、老若男女、誰でも楽しめる卓球を今日から始めてみませんか？初心者の方でも、ベテランが手取り足取り指導致しますので、気軽にお出掛け下さい。大岡山地区は体育館にて、長津田地区は G4 棟仮卓球場にて、昼休み練習をしていますので、ちょっと、覗いてみて下さい。

連絡先 大岡山地区 人事課職員掛 内線3006
久保田俊三
長津田地区 大学院総合理工学研究科
総務掛 内線2502
吉田 優

昭和57年度グループ研究

本学には、異なる専門分野の研究者の協力により行う研究として7年前から設けられている「グループ研究」がある。これは研究者が10人程度集まって、学際的なテーマあるいは総合的な研究体制を必要とするテーマをとりあげ、最長2年間の存続期間中に15回以内の打合せ、討論会などを開き、目的達成後は科学研究費補助金、民間財団の研究助成金などを申請して将来の本格的研究へと発展させるための足がかりとして大きな役目を果たしている。

今年も学内公募をし、研究委員会での選考を経て、学長の裁決の結果、新たに4件のグループ研究が設定され、継続分と合わせて8件となった。

各グループ研究課題と代表者は次表のとおりである。
(1～4継続, 5～8新規)

1. 磁性体作業物質を用いた理 教授 橋本 巍洲
冷凍システムの開発基礎研究
2. 比較文化論的視点ならび工 教授 江頭 淳夫
に学際的視点に立つ課題研究
3. 電子・光機能有機材料の工 教授 小門 宏
研究
4. 生体工学研究の組織化 精 教授 池辺 潤
5. メスバウアー効果の応用 理 教授 久武 和夫
6. わが国における資源有効工 教授 早川 豊彦
利用技術
7. 液体の構造と物性 総 教授 大瀧 仁志
8. 品質と非品質とを組合せ 総 教授 古川静二郎
た新しい光・電子デバイスの研究

昭和57年度学科・専攻主任

〔理学部〕

学科・専攻・施設等	氏 名	内線電話
数 学 科	丹野 修吉	2208
物 理 学 科	三宅 哲	2071
化 学 科	池川 信夫	2227
応 用 物 理 学 科	本尾 実	2453
情 報 科 学 科	木村 泉	3202
天然物化学研究施設	野宗 嘉明	㊦2376

〔工学部〕

金 属 工 学 科	後藤 和弘	3142
有 機 材 料 工 学 科	今井 淑夫	2432
無 機 材 料 工 学 科	小坂 丈予	2524
化 学 工 学 科	辻 二郎	2120
高 分 子 工 学 科	飯島 俊郎	2128
機 械 工 学 科	辻 茂	2164
生 産 機 械 工 学 科	笹田 直	2535
機 械 物 理 工 学 科	坂田 勝	3180
制 御 工 学 科	森 政弘	2547
経 営 工 学 科	黒沢 一清	2247
電 気 ・ 電 子 工 学 科	林 泉	2186
電 子 物 理 工 学 科	後藤 尚久	2567
情 報 工 学 科	当麻 喜弘	2566
土 木 工 学 科	長滝 重義	2585
建 築 学 科	篠原 一男	2292
社 会 工 学 科	阿部 統	3185
教 育 群	坂元 昂	2254
人 文 社 会 群	前原 昭二	2257
外 国 語 群	玉泉八州男	2271
保 健 体 育 群	平沢彌一郎	2288
像情報工学研究施設	安居院 猛	㊦2082

〔大学院理工学研究科〕

数 学 専 攻	吹田 信之	2211
物 理 学 専 攻	千葉 廉	2081
化 学 専 攻	石戸 良治	2237
応 用 物 理 学 専 攻	久武 和夫	2454
情 報 科 学 専 攻	本間 龍雄	3207
金 属 工 学 専 攻	高橋 恒夫	3139
有 機 材 料 工 学 専 攻	酒井 哲也	2468
無 機 材 料 工 学 専 攻	宇田川重和	2520
化 学 工 学 専 攻	谷口 雅男	2145
高 分 子 工 学 専 攻	福富 兀	2127
機 械 工 学 専 攻	松本 浩之	2157

生産機械工学専攻	田村 博	2534
機械物理工学専攻	臼井 英治	3181
制御工学専攻	森田 矢次郎	2546
経営工学専攻	野田 淳彦	2253
電気・電子工学専攻	柳沢 健	2560
電子物理工学専攻		
情報工学専攻		
土木工学専攻	吉田 裕	2587
建築学専攻	早川 一也	3152
社会工学専攻	石原 舜介	3187
原子核工学専攻	三神 尚	3064

〔大学院総合理工学研究科〕

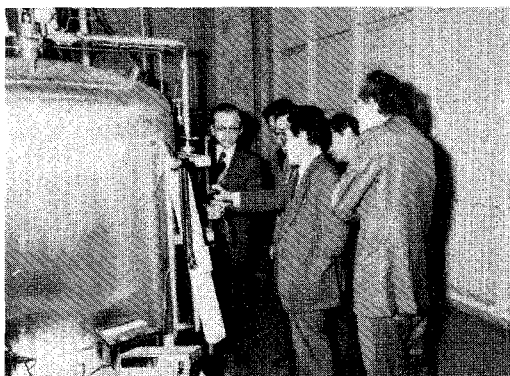
物理情報工学専攻	岸 源也	Ⓔ2520
電子化学専攻	関根 太郎	" 2428
社会開発工学専攻	岸田 英明	" 2603
精密機械システム専攻	神馬 敬	" 2045
材料科学専攻	森 勉	" 2622
電子システム専攻	武者 利光	" 2546
化学環境工学専攻	大島 榮次	" 2248
生命化学専攻	吉村 寿次	" 2370
エネルギー科学専攻	塩田 進	" 2660
システム科学専攻	菅野 道夫	" 2641

極低温エネルギー実験センターが完成

大岡山地区本館裏に建設中であった極低温エネルギー実験センターが無事に一部完成し、4月27日(火)には関係者を迎えて同センターの施設見学、披露が行われた。

今後、学内共同研究施設として大いに活用されることになる。

センター長は、理学部栗野 満教授である。



——— 教官寄贈図書 ———

山口昌一郎（教授）：エネルギー管理技術

◇訂正

前月号 (No.145) の 5 ページ、昭和56年度手島記念研究賞受賞者のうち、ハ、研究奨励賞 3 件に下記の 1 件を追加します。お詫びして訂正致します。

ハ、研究奨励賞

専攻名	受賞者	博士論文名	備考
金属工学専攻	小山泰正	In 基合金の相変態の研究	1980年発表

~~~~~編集後記~~~~~

各類主任に新入生セミナー報告を書いていただきました。今年もさまざまな工夫が凝らされ、充実したセミナーが行われたようです。セミナーの実施に努力された関係者の御苦労がしのばれます。

教職員のサークル案内を掲載しました。サークル活動で大いに身心をリフレッシュしましょう。

東京工大クロニクル No.146

昭和57年 5月18日

東京工業大学広報委員会 発行◎

東京都目黒区大岡山 2-12-1 〒152

電話 03-726-1111 内線2032